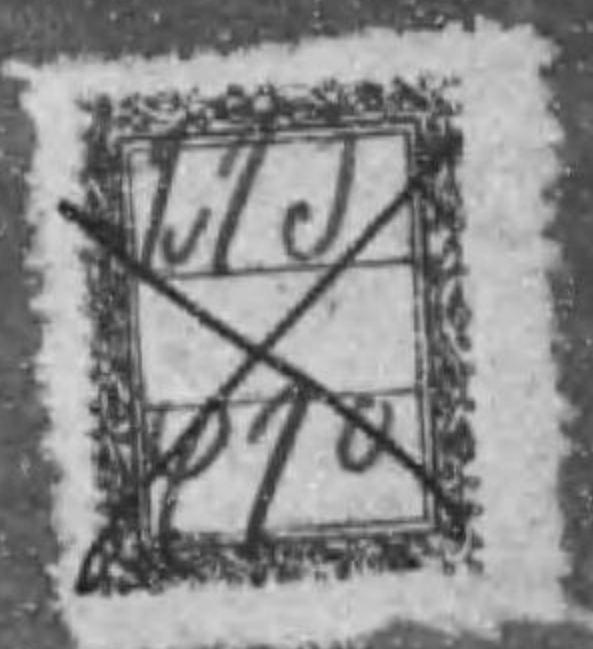


特116

682

鷓  
飼



始



特116  
682

五月  
前シテ 鶺鴒の堂  
ワキキ 日蓮上人  
後シテ 間庵王  
ワキシ 從僧

鶺鴒飼 五番目

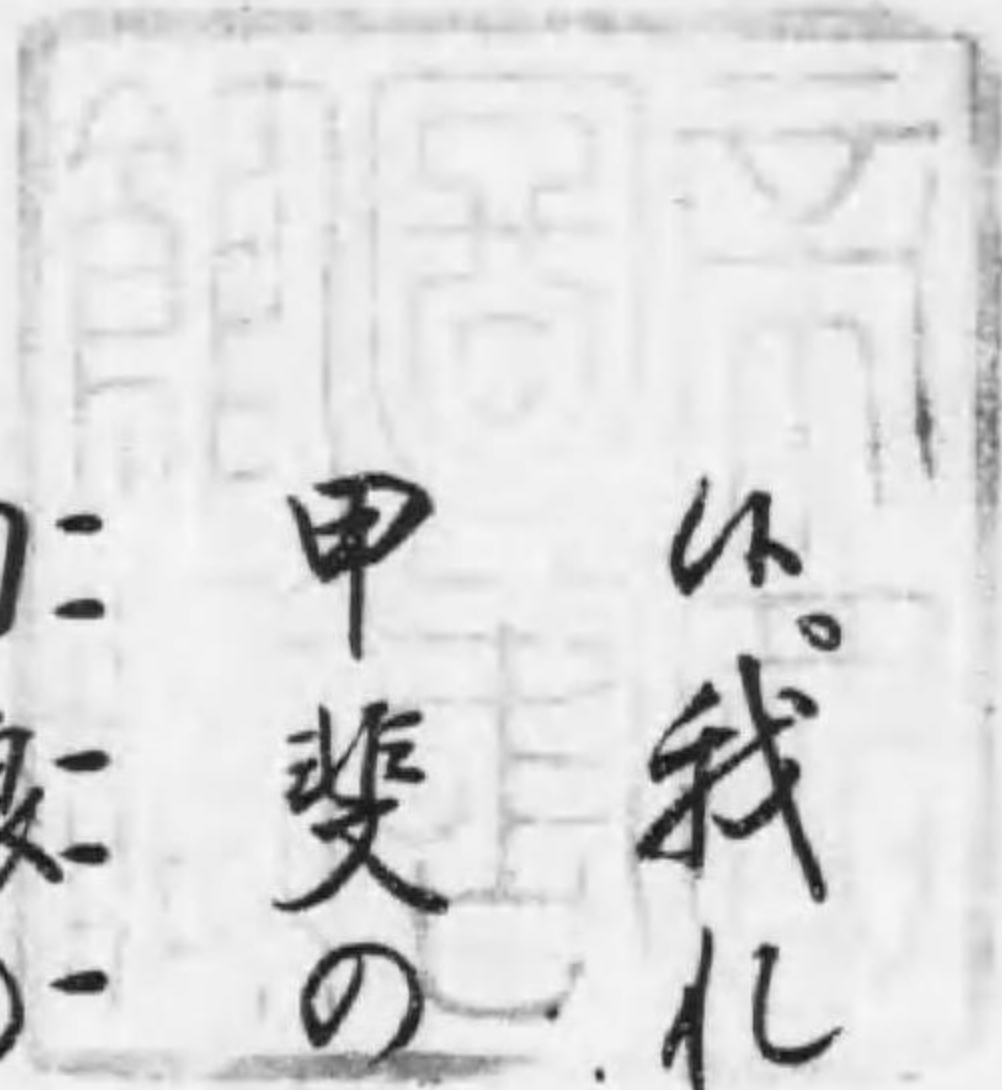
備 (コイ舎) の如く黒色活風は高安流大鼓  
カニ地 の如く赤色は大倉流小鼓  
ツツケ の如く藍色活風は葛野流大鼓  
打放 の如く藍色は幸流小鼓  
打込 の如く赤色活風及・は  
観世流大鼓

詞「<sup>ワキ</sup>是れは安房の清澄より出でたる僧にて

は我れ未だ甲斐の國を見ず程に。此の  
甲斐の必行脚と志しては  
白浪の安房の清澄立ち出て六浦のわた

り鎌倉山

正の度  
大91交  
を内



(打切) 上歌 (三人)  
ワキキ  
ワキシ

や つれは てぬる たびすが た  
一 二 三 四 五 六 七 八  
拍 拍 拍 拍 拍 拍 拍 拍

鳥  
月

打切

一 拍 二 拍 三 拍 四 拍 五 拍 六 拍 七 拍 八 拍

(ヨイ合)

や つ づ れ は て ぬ る た び す が た

(ハニ)

す つ る 身 な れ ば は ぢ ら れ す

(打切)

— ヲ 打切

(ヨイ合)

ひ ど 夜 か り 寝 の く さ む し ろ

(ヨイ合)

か ね を ま く ら の う へ に き く

(ヨイ合)

都 留 の こ ほ り の あ さ 立つ も

(ヨイ合)

日 た け て こ ゆ る や ま み ち を

(オラシク)

過 ぎ て い さ 石 和 に 著 ぎ に け り す

(ハテ)

— ぎ て い さ 和 に 著 ぎ に け り

(アキ)

半声

『出ノ囃子』

フキ狂言と 問答ナクテ

一 聲 半越

止メヨイ合

シテ

一聲剛吟

鴉 舟 に と も す 船 火 の 後 の や み 路 を

(合ハ)

せん サシ 実 や 世 の 中 を う し と 思 は ば す つ べ

きた 其の心更に夏河に鴉使ふ事の面白

さに殺生をすするはかたきよ 傳へゆく遊

鳥 同

子伯陽は。月に誓つて契をなし。夫婦

二つの星となる。今の雲のうへぐも。月なきよ

はをこそ悲しみ給ふに。我れはそれにはひき

かへ月の夜嘆をいどひ。闇になる夜を悦べば

下歌 鶺鴒（打切） ぶねにともすかがり火の

きえてやみこそかなしいけれ（打切）

上歌 つたなかりける身のわざら（打切）

つたなかりける身のわざら（ヨイ合）

いまはせんをくゆれども（ヨイ合）

かひもなみ間に鶺鴒（打ニツ）

かなはぬいのちがつがんとて（カケ切）

いどどむわざらのものうさよ（ヨイ合）

いどどむわざらのものうさよ（打ニツ）

いどどむわざらのものうさよ（ヨイ合）

いどどむわざらのものうさよ（打ニツ）

詞

いつもの如く此堂に上がり鶴を休めうず  
 るにてい。や。是れは往來の人のあ入りかよ  
 さん<sup>ワキ</sup>が往來の僧にてい。が。里にて宿をかり  
 いへば。禁制の由申し程に。叔此の此堂  
 に泊りてい<sup>シテ</sup>。げにげに里にてお宿系らせう  
 ずる者は覺えずい<sup>ワキ</sup>。叔此承は如何なる人  
 にて泣りいぞ<sup>シテ</sup>。さん。是れは鶴づかひにてい。が。

いつも月の程は此の此堂にやすらひ。月入り  
 て鶴を使ひい<sup>ワキ</sup>。叔は若しからぬ人にてい。ぞ。や。  
 見申せば早拔群に年たけ強ひてい。が。か。か。  
 う殺生のわざい。物<sup>シテ</sup>。稀なくい。あはれ此の業を  
 いとまりあつて。餘の業にて身命をい。つ。ぎ。  
 いへかし<sup>シテ</sup>。作<sup>シテ</sup>。況にてい。へ。共。若年より此の業  
 にて身命を扶かりい程に。今更止まつつ

どうも、なくい、如何に申し候。此の人を見て  
思ひ出したるふりの候。此のご三ヶ年前に。  
此の河下岩落と申す所を通り候ひに。  
か様の鶴つかひにゆき逢ひ候程に。科の中  
の殺生の由を申し候へば。冥にもとや思ひ  
けん。我が屋につれて帰り。一夜けしからず  
撮りて候ひしよ。扱は其の時の僧にて。後

り候か、<sup>ワキ</sup>「<sup>シテ</sup>なぶ、其の鶴  
つかひこそ空しく成りて候へ」<sup>ワキ</sup>「夫れは何故  
空しく成りて候ぞ」<sup>シテ</sup>「はづかしながら此の業  
にて空しく成りて候。其の時の有様語つて  
ぞかせ申し候へし。跡を尋うて候やう候へ  
<sup>ワキ</sup>「心得申し候」<sup>シテ</sup>「抑此の石和河と申す  
は上下三里が間はかたく殺生禁断の所也。

今仰せの岩落込に鶴づかひは多し。夜な  
 夜な法所に思ひのぼつて鶴をつかふに  
 き者の仕業かな。かれを見顯さんとたく  
 みした。夫れをば夢にも知らずして。又或夜  
 思ひ上つて鶴をつかふ。ねらふ人ぐはつと  
 より。一殺少生の理にまかせ。かれをころせ  
 と。言ひあへり。其の時左右の手を合せ。

かかろ殺生禁断の所共知らずは。向後の  
 事をこそ心得いべけれとて。手を合せ  
 歎き悲しめ共。たすくる人も浪の底に。

(打出シ)  
 以テアサリ  
 拍子に合はず  
 ヤ  
 ふいづけに—したまへば—ア  
 叫 けべ—エト ぞ—こゑ ゑが—出でば—こゝろを

詞  
 其の鶴づかひの亡者にてい 言法同断のぶに

てい。さうらば罪障懺悔に業力の鶴をつかうて

見せしへ。跡をば態に帯ひ申しかへし

ありあり鶴やな。さらば業力の鶴を借りて

目にかけてし。跡を帯うて送りかへ心得

し。既に此の夜も更過ぎて。鶴つかふ頃

もなりしかば。いざ業力の鶴をつかはん

是れは他國の物語。死したる人の業により

斯く苦しみのうきわざを。今思ふ子のふし

ぎさよ。しめる松明ふり立てて。夜の夜

のぶだすき。鶴かごを用きどり出し。しまつ

すをらし。鶴ども。此の河浪にばつと放せば

地。おもしろ。の。ありさまや。

そ。こ。に。む。見。ゆ。る。か。が。り。火。に。

お。ど。ろ。く。う。を。を。お。ひ。ま。は。し。

か。づ。き。あ。げ。す。く。ひ。あ。げ。

鶴の故まふ  
仕舞  
獨吟

(打出シ)

(ツン)

(打カケ)

(四段目)

鳥司

ト



一箱 二箱 三箱 四箱 五箱 六箱 七箱 八箱

(打切)

ひまなくうををくふときは

(トリ)

つみ

(ツツケ)

のちのせ

(ワケ)

わすれはて

(三地)

みながるみづのよどなれば

(ツツケ)

いけ貴のこひやのぼらふた

(ヨイ)

あまーしーまがはにーあーらぬども

半声

(手)

あゆさばしるせぜらぎに

(手)

かだみてうををはよむためじ

(ヨイ)

不思議やなかがり火の

(ヨイ)

もえてもかげのくらくなる

(打)

はー

(打切)

つまにーなりぬるかなしさア

(ヨイ)

鶉ぶねのかがりかーげ消えて

打切 能のとき はわん

鳥司

名 <small>(タテマ)</small>	名 <small>(タテマ)</small>	や <small>(タテマ)</small>
ど <small>(タテマ)</small>	ど <small>(タテマ)</small>	み
り	り	踏 <small>(タテマ)</small>
を	を	ば
し	し	か
さ	さ <small>(タテマ)</small>	へ
を	を	る
い	い	この
かに	かに	身の
に	に	の
せ	せ	一
え	え	ら
ん	ん	

中入

狂言語

待詠上歌  
 かはは せきい にい ち字 かまつけ  
 かはは 瀬のいしをひろひあげ  
 かはは 瀬のいしをひろひあげ  
 たへなるのりのおんきやうをい

な <small>(タテマ)</small>	な <small>(タテマ)</small>	な <small>(タテマ)</small>	つ <small>(タテマ)</small>
ど <small>(タテマ)</small>	ど <small>(タテマ)</small>	み	せ
か	か	間	き
は	は	に	い
う	う	し	ち
か	か	づ	字
ま	ま	め	か
ぼ	ざ	エ	ま
る	る	ど	つ
べ	べ	む	け
ま	ま	ら	一
い	い	は	て
		ば	
		。	

〔出ノ雑子〕

早笛

止メ打込

後シテ  
 夫れ地獄遠きにあらざ。眼前の境界の悪

馬司

鬼外になし。そもそも彼の者。若年の昔

より。江河に漁つて其の罪おびた。たし。され

ば鉄札敷を盡し。金紙をよごすりもな

く。無間の底に墜罪すべかつしを。一僧

一宿の功カに引れ。急ぎ仏所におくらんと。

悪鬼心をやはらげて。鶴舟を弘誓の船に

なし。法華の法法の助け。船かかり火も深

ふ気色かな。地速ひの多き。浮雲も

雲相の風あらく吹いて。地千里が外も雲は

化て。真如の月や。出でぬらん

平地「ありがたの」おんことや。

奈らくにし。づむ。あくにんを。

ぶつ。所におく。り。たまふなる。

そ。の。ず。る。さ。う。の。あ。ら。た。さ。よ。

(三音) (三音) (三音) (三音)

・仕舞

シテ

ほつ華は利や  
くふかきゆゑ  
むぐんるゐを  
むぐんるゐを

魔だうにしまづ  
ぐんたため  
きたりたり  
きたりたり

すくはんた  
にいた  
きたりたり

地 実うにあが  
あがた  
きたりたり

めうのいあ  
あがた  
きたりたり

それはう美  
う美  
きたりたり

たへなるのり  
のり  
きたりたり

前二拍 三拍 四拍 五拍 六拍 七拍 八拍

(ツマケ)

地

きやうと  
はなど  
やなづ  
くらんそ

(和)

れ

しやうげ  
の  
都めい  
にて

(打カケ)

地

ふたつ  
み  
つも  
な

(新送)

て

だいま  
あ  
どく  
に

(ハフヤ)

て

あ  
あ  
しづ  
み

(五ツノ)

て

う  
か  
が  
たま  
あ  
くに

(キカケ)

ン

ぶつ果  
を  
えん  
こと  
は

(地ノカ)

ン

ぶつ果  
を  
えん  
こと  
は

鳥司

ト

拍 二拍 三拍 四拍 五拍 六拍 七拍 八拍

の-<sup>オト</sup>ま-<sup>ヤ</sup>う-<sup>ク</sup>の-<sup>ヨ</sup>ち-<sup>イ</sup>か-<sup>カ</sup>ら-<sup>ナ</sup>ら-<sup>ズ</sup>や、

キリ地 <sup>(ハヤシ)</sup> <sup>(マシ)</sup> <sup>(キリ)</sup> <sup>(地)</sup> こ-<sup>チ</sup>れ-<sup>レ</sup>を-<sup>シ</sup>見-<sup>シ</sup>か-<sup>カ</sup>れ-<sup>レ</sup>を-<sup>シ</sup>ま-<sup>ク</sup>と-<sup>ト</sup>ま-<sup>ハ</sup>。

<sup>(ワヤ)</sup> <sup>(打込)</sup> こ-<sup>チ</sup>れ-<sup>レ</sup>を-<sup>シ</sup>見-<sup>シ</sup>か-<sup>カ</sup>れ-<sup>レ</sup>を-<sup>シ</sup>ま-<sup>ク</sup>と-<sup>ト</sup>ま-<sup>ハ</sup>。

<sup>(マシ)</sup> <sup>(キリ)</sup> <sup>(地)</sup> た-<sup>タ</sup>と-<sup>ト</sup>ひ-<sup>ヒ</sup>あ-<sup>ア</sup>く-<sup>ク</sup>に-<sup>ニ</sup>ん-<sup>ン</sup>な-<sup>ナ</sup>り-<sup>リ</sup>と-<sup>ト</sup>も-<sup>モ</sup>。

<sup>(カカ)</sup> <sup>(マシ)</sup> <sup>(キリ)</sup> <sup>(地)</sup> 慈-<sup>ジ</sup>の-<sup>ノ</sup>こ-<sup>コ</sup>お-<sup>オ</sup>ろ-<sup>ロ</sup>を-<sup>シ</sup>さ-<sup>サ</sup>ま-<sup>マ</sup>と-<sup>ト</sup>し-<sup>シ</sup>て-<sup>テ</sup>。

<sup>(ハヤシ)</sup> <sup>(マシ)</sup> <sup>(キリ)</sup> <sup>(地)</sup> そ-<sup>ソ</sup>う-<sup>ウ</sup>會-<sup>エ</sup>を-<sup>シ</sup>供-<sup>ク</sup>や-<sup>ヤ</sup>う-<sup>ウ</sup>す-<sup>ス</sup>る-<sup>ル</sup>な-<sup>ナ</sup>ら-<sup>ラ</sup>ば-<sup>バ</sup>。

<sup>(ワヤ)</sup> <sup>(打込)</sup> <sup>(マシ)</sup> <sup>(キリ)</sup> <sup>(地)</sup> そ-<sup>ソ</sup>の-<sup>ノ</sup>け-<sup>ケ</sup>ち-<sup>チ</sup>え-<sup>エ</sup>ん-<sup>ン</sup>に-<sup>ニ</sup>ひ-<sup>ヒ</sup>か-<sup>カ</sup>れ-<sup>レ</sup>つ-<sup>ツ</sup>つ-<sup>ツ</sup>。

<sup>(カカ)</sup> <sup>(マシ)</sup> <sup>(キリ)</sup> <sup>(地)</sup> ぶ-<sup>ブ</sup>つ-<sup>ツ</sup>果-<sup>カ</sup>善-<sup>ゼン</sup>だ-<sup>ダ</sup>い-<sup>イ</sup>に-<sup>ニ</sup>い-<sup>イ</sup>た-<sup>タ</sup>る-<sup>ル</sup>べ-<sup>ベ</sup>し-<sup>シ</sup>。

<sup>(二眼目)</sup> <sup>(カカ)</sup> <sup>(マシ)</sup> <sup>(キリ)</sup> <sup>(地)</sup> 空-<sup>ウツ</sup>に-<sup>ニ</sup>わ-<sup>ワ</sup>う-<sup>ウ</sup>ら-<sup>ラ</sup>い-<sup>イ</sup>の-<sup>ノ</sup>利-<sup>リ</sup>や-<sup>ヤ</sup>く-<sup>ク</sup>と-<sup>ト</sup>そ-<sup>ソ</sup>。

<sup>(打込)</sup> <sup>(カカ)</sup> <sup>(マシ)</sup> <sup>(キリ)</sup> <sup>(地)</sup> 他-<sup>タ</sup>を-<sup>シ</sup>た-<sup>タ</sup>す-<sup>ス</sup>く-<sup>ク</sup>ベ-<sup>ベ</sup>の-<sup>ノ</sup>ち-<sup>チ</sup>か-<sup>カ</sup>ら-<sup>ラ</sup>な-<sup>ナ</sup>ア-<sup>ア</sup>れ-

<sup>(合込)</sup> <sup>(打込)</sup> <sup>(カカ)</sup> <sup>(マシ)</sup> <sup>(キリ)</sup> <sup>(地)</sup> 他-<sup>タ</sup>を-<sup>シ</sup>た-<sup>タ</sup>す-<sup>ス</sup>く-<sup>ク</sup>ベ-<sup>ベ</sup>の-<sup>ノ</sup>ち-<sup>チ</sup>か-<sup>カ</sup>ら-<sup>ラ</sup>な-<sup>ナ</sup>ア-<sup>ア</sup>れ-

<sup>(合込)</sup> <sup>(打込)</sup> <sup>(カカ)</sup> <sup>(マシ)</sup> <sup>(キリ)</sup> <sup>(地)</sup> 他-<sup>タ</sup>を-<sup>シ</sup>た-<sup>タ</sup>す-<sup>ス</sup>く-<sup>ク</sup>ベ-<sup>ベ</sup>の-<sup>ノ</sup>ち-<sup>チ</sup>か-<sup>カ</sup>ら-<sup>ラ</sup>な-<sup>ナ</sup>ア-<sup>ア</sup>れ-

鳥司

トニキ

1/2  
470

大正九年九月十五日印刷  
大正九年十二月二日發行

著作者 田崎延次郎

東京府下雙多摩郡淀橋町柏木百四十三番地

發行兼印刷者

檜常之助

京都市上京區二条通麩屋町角  
京都電話上二一九〇番  
振替口座大阪三六一八番



發行所

東京市神田區錦町壹丁目拾番地  
檜大瓜堂書店

東京電話神田二五二八番  
振替口座東京三五五二番

印刷所

東京市麹町區隼町貳拾壹番地  
小林印刷株式會社

第 一 卷

一 二 三

終

